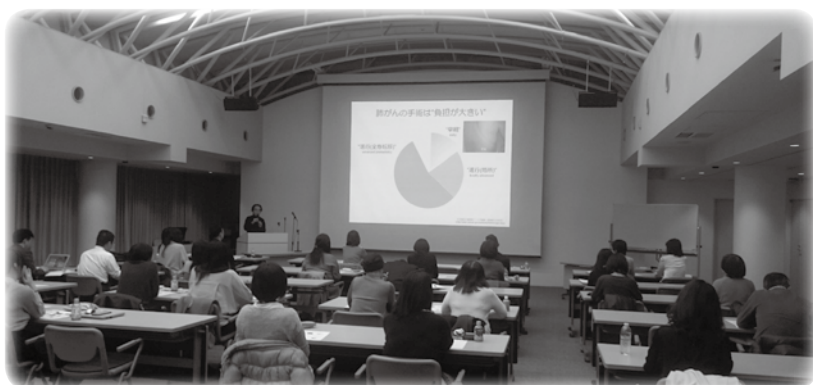




がん医療のグローバルコミュニケーターとして ～JAMT(ジャムティ)の歩み～



—vol.10の紹介—

- 1. ごあいさつP1
- 2. 「海外がん医療情報リファレンス」活動報告 ...P2
- 3. がんセミナー・抄読会P4
- 4. 監修者からP6
- 5. 翻訳者からP8
- 6. 副理事長からP9
- 7. スタッフからP10
- 8. 事務局からのお知らせP12
- 9. 組織概要P12
- 10. 協賛企業P12

1. ごあいさつ

平成も今年で終わりを迎えます。この30年間にがん診療は大きな変化を遂げました。新規抗がん薬、分子標的薬、さらには免疫チェックポイント阻害薬が様々ながん種に有効性を示しています。分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬と化学療法との併用はさらに高い有効性が示され、今後は進行がん患者でも根治が期待されるようになってきました。治験も国際化されています。平成18年に成立した「がん対策基本法」以降、現場の意識も大きく変わり、患者への情報提供や支持療法についても大きな変化がありました。

今後もJAMTは信頼できる医学情報をお伝えしていきます。ご支援のほど、よろしくお願い致します。

2.『海外がん医療情報リファレンス』活動報告

2018年 2月	25日	関西がんセミナー 一部:『薬が効く』とはどういうことか? ~科学的根拠に基づいた医療(EBM)で考える~ 講師:大野 智 先生(大阪大学大学院医学系研究科統合医療学寄附講座) 二部:『がん治療の進歩 ~遺伝子変異と腫瘍免疫~』 講師:田中 文啓 先生(産業医科大学第2外科/呼吸器) 字幕翻訳勉強会:『吹き替えの基礎(ソフトの使い方、訳のコツ)』 講師:寺田真由美先生(映像翻訳者)
3月	11日	2017年度 第1回総会/第2回理事会開催
6月	1日~5日	ASCO学会(シカゴ)患者アドボケート参加(日本癌治療学会PAL助成)野中副理事長
7月	8日 19日~21日	がんセミナー「大腸がん化学療法の基本」 講師:中村 能章 先生(国立がん研究センター東病院消化管内科) ASCO患者アドボケート参加報告 野中副理事長 医療翻訳ワークショップ「テンスとアスペクト」佐復純子理事 日本臨床腫瘍学会学術集会(JSMO)神戸 ペイシエント・アドボケイト・プログラム参加(JAMT会員4名以上)
9月	8日 8日 27日~29日	JAMT 第1回抄読会/尾崎由記範先生(腫瘍内科・乳腺/虎の門病院 臨床腫瘍科) 第1回理事会開催 日本癌学会学術総会 SSP参加 寺田先生 野中副理事長
10月	13日 18-20日	JAMT第2回抄読会/久保田馨先生(呼吸器内科/日本医科大学付属病院 がん診療センター) 日本癌治療学会学術集会 がん患者・支援者プログラム参加(JAMT会員4名以上) IKCCと日本患者会との顔合わせミーティング
11月	10日 20日 29日-12月1日	JAMT 第3回抄読会/北丸綾子先生(理学博士・実務翻訳者) 愛知県立大学「通訳翻訳研究所」第5回定例講演会 野中副理事長講演 日本肺癌学会学術集会 患者家族向けプログラム参加(JAMT会員7名以上)
12月	8日 下旬	JAMT 第4回抄読会/榎本裕先生(泌尿器科/三井記念病院 泌尿器科) コ克蘭ジャパン「Testing Treatment Interactive」書籍納品(ボランティア翻訳者10名)
2019年 1月	12日	JAMT 第5回抄読会/下村昭彦先生 (腫瘍内科 乳癌 早期開発/国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科)
2月	9日	JAMT 第6回抄読会/東光久先生 (総合診療、腫瘍内科、緩和ケア/福島県立医科大学 白河総合診療アカデミー)
3月	9日 17日	JAMT 第7回抄読会/後藤梯先生 (呼吸器内科/国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科) 2018年度 第1回総会/第2回理事会開催

ボランティアサイトでのがんの情報提供

『海外がん医療情報リファレンス』主な英文記事の発信元

- 米国国立癌研究所(NCI) -NCIニュース、ファクトシート、薬剤情報(A-Z)
- FDAニュース -新薬承認と安全性報告
- 学会ニュース - 米国臨床腫瘍学会(ASCO)、欧州臨床腫瘍学会(ESMO)、米国癌学会(AACR)のプレスリリース、
- 大学/施設ニュース MD アンダーソンがんセンター、ジョンズホプキンス、スローンケタリング、ダナファーマーがん研究所
- 米テキサス大学MD アンダーソンがんセンター専門家向け月刊ニュースレター「Oncolog」(8月で終了)
- 英国医療サービス(NHS)など

患者会他団体への提供

- 炎症性乳がんサイト(MD アンダーソン) 和訳
- CML Advocates Network (慢性骨髄性白血病) TFR4白血病投薬中止後完全寛解についての国際アンケート調査の和訳。
日本のCML 患者会「いずみの会」協働。

- コクランジャパンよりTesting Treatment Interactive インタラクティブな治療の検証和訳。

- 一般社団法人日本希少がん患者会ネットワーク (RCJ) アンケート英訳
- 世界腎臓がん連合International Kidney Cancer Coalition (IKCC) の国際アンケート調査の和訳、日本の腎がん患者会「avec」と協働。

- 日本癌治療学会にてIKCC のDr. Jewettと日本の腎がん患者会avec との初顔合わせ通訳・翻訳
- 卵巣がん患者会スマイリー
世界卵巣がん連合の国際調査「EVERY WOMAN STUDY 2018」における日本の解析結果の和訳

学会参加報告

今年もJAMT より参加しました。患者支援活動の向上のため、ひとりでも多くの参加を期待しています。

日本臨床腫瘍学会学術集会

会期:7月19日~21日

会場:神戸国際会議場 神戸ポートピアホテル

ペイシェント・アドボケート・プログラム参加

(JAMT会員4名以上)

日本癌学会学術総会

会期:9月27日~29日

会場:大阪国際会議場 リー

ガロイヤルホテル大阪

SSP 野中・寺田参加

日本癌治療学会学術集会

会期:10月18~20日 会場:パシフィコ横浜

ポスター発表 がん患者・支援者プログラム参加

IKCCのDr.Jewettと腎がん患者会avecの初会合

(JAMT会員4名以上)

日本肺癌学会学術集会

会期:11月29日~12月1日

会場:京王プラザホテル・新宿NSビル

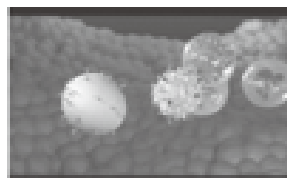
患者家族向けプログラム参加 (JAMT会員7名以上)



「海外がん医療情報リファレンス」 2018年1月~12月アクセス数の多かった記事ランキング

記事タイトル	
1 女性気がつけたい婦人科がんの10の症状/MDアンダーソンがんセンター	
2 リンパ腫患者の余命は、診断後の無再発期間2年経過で通常の平均余命にまで回復/メイヨークリニック	
3 ヒトパピロマウイルス(HPV)とがん/米国国立がん研究所(NCI)ファクトシート	
4 アルコールとがんについて知ってほしい10のこと/英国医療サービス(NHS)	
5 炎症性乳がん/NCIファクトシート	
6 非浸潤性乳管がん(DCIS)診断後の乳がんによる死亡リスクは低い/米国国立がん研究所(NCI)/ブログ~がん研究の動向~	
7 コーヒーが、乳がん治療薬タモキシフェンの効果を高める可能性/英国医療サービス(NHS)	
8 BRCA1、BRCA2遺伝子:がんリスクと遺伝子検査/米国国立がん研究所(NCI)ファクトシート	
9 濾胞性リンパ腫治療の新時代/MDアンダーソン 月刊OncoLog誌2017年9号	
10 HERA 試験後10年:HER2陽性早期乳がんの術後療法の現在/欧州臨床腫瘍学会(ESMO)	
11 専門医に聞く:乳癌に対する食事と運動の効果/キャンサーコンサルタンツ	
12 若年甲状腺がんでもリンパ節転移あれば悪性度が高い/デューク大学医療センター	
13 ルミナールA乳がんでは術後化学療法の効果は認められず/米国がん学会(AACR)サンアントニオ乳がんシンポジウム(SABCS)2015	
14 OncoLog 2013年11-12月号◆乳房ページェット病ー稀な疾患だが、悪性腫瘍を見落とすことも/MDアンダーソンがんセンター月刊OncoLog誌2013年11-12月号	
15 運動は最も有効性が証明された乳がん再発予防法/英国医療サービス(NHS)	
16 がんに関するよくある迷信と誤解/米国国立がん研究所(NCI)ファクトシート	
17 卵管切除で卵巣がんリスクが減少する可能性/MDアンダーソンがんセンター月刊OncoLog誌2月号	
18 胃酸逆流治療薬の長期服用と胃がんリスク増加が関連/英国医療サービス(NHS)	
19 治療が終了した後にー認知機能の変化/LIVESTRONG	
20 子宮頸がん検査について:パップテストとHPV検査/NCI(米国国立がん研究所)ファクトシート	

2018年にアップされたNCI 翻訳動画



免疫療法:免疫系を使ったがん治療



プロテオゲノミクス:プレジジョン医療 最新線



口腔・咽頭がん
~知っていますか?~



脳腫瘍・神経系腫瘍
~知っていますか?~



ヒトパピロマウイルス(HPV)
~知っていますか?~



卵巣がん
~知っていますか?~



臨床試験における患者の安全確保



甲状腺がん
~知っていますか?~

3.がんセミナー・抄読会

関西がんセミナー

日時:2018年2月23日
会場:大日本住友製薬株式会社
大阪本社7階ホール

本年2月、待望のJAMTの関西セミナー・字幕翻訳勉強会が開催されました。関西在住の翻訳者の方々、そして患者さんや一般の方々がお集まりくださり、監修者のお二人の医療セミナーと字幕勉強会という盛沢山な内容となりました。東光久理事（福島県立医科大学白河総合診療アカデミー）と野中希副理事長がファシリテーターとなり、有意義な勉強の機会となりました。



(手前左から田中先生、東先生、野中副代表、大野先生、寺田先生)

第1部テーマ:「薬が効く」ということはどういうことか ～科学的根拠に基づいた医療「EBM」で考える～



講師:大野智先生(島根大学医学部附属病院臨床研究センター)
時間:14:30～15:30

NHK「あさイチ」の『患者力アップのコツ』に出演されたばかりの大野先生。日常の身近なシーンを例に、医療情報におけるエビデンスの重要性についてご講義いただきました。数字のトリックや統計の難しさなど、医療翻訳者にとっても医療リテラシーの研鑽が必要であると学ぶことができました。「普段感じていた疑問が霧消した」「楽しい(!)講演だった」「治療方法を自分で決める重要性に改めて気づいた」という声が聞かれました。声が聞かれました。

第2部テーマ:がん治療の進歩 ～肺がんの遺伝子変異と腫瘍免疫を中心に～

講師:田中文啓先生(産業医科大学第2外科)
時間:15:40～16:40

様変わりする肺がん治療における分子生物学、免疫チェックポイント阻害療法の機序について詳しく教えていただきました。＜がんの進行度と治療＞＜がんの特徴と標的薬剤＞＜がん免疫と“新しい免疫療法”＞についてわかりやすく解説くださり、参加者からは、「免疫チェックポイントの仕組みがすっかり理解できた」「内視鏡手術の映像がわかりやすかった」「がん治療の明るい未来を見出すことのできる希望にあふれる内容だった」という感想をいただきました。



字幕翻訳勉強会:「卵巣がん～知っていますか～」

講師:寺田真由美先生(映像翻訳者)
時間:12:30～14:15

『海外癌医療情報リファレンス』では、NCI(米国国立がん研究所)動画に字幕を付けて掲載しています。(P3参照)字幕指導の寺田先生と、文字表記や字幕制作の基本ルールと鉄則、字幕ソフトの使い方、訳のコツなどを対話しながら学ぶインタラクティブな勉強会となりました。関西在住の翻訳者の方には3年ぶりの字幕翻訳勉強会で、初めて参加される方も多く、「翻訳者の直感を信じてよい」「わかりにくい言葉を使うより収めることが大切」などという言葉が印象に残ったという感想や「憧れの寺田先生にお会いできて嬉しかった」「これからも関西での開催を希望します」という反響をいただきました。



がんセミナー

テーマ:大腸がん化学療法の基本

日時:2018年7月8日(日) 13:15~16:00

講師:中村能章先生

(国立がん研究センター東病院 消化管内科)



成人がんの代表的な疾病である大腸がんですが、その治療法は多岐にわたります。今回はその大腸がんの化学療法の基本ついて中村先生に詳しく解説していただきました。疾患進行による治療方法の違いや、治療に伴うさまざまな副作用、およびその副作用の対処法などを詳しく教えていただきました。現在では化学療法に加え分子標的薬との併用療法なども進み、がん治療がDNA

検査による遺伝子重視に変化することでさらに個別化治療の選択が増えることを知ることができました。講義後には患者会シャロームの方々を始め、一般の患者さんや翻訳者からの質疑応答をしていただき、日々困難な患者の治療に取り組まれる中村先生の熱意が伝わる、貴重な知識を得る有意義な講義となりました。



ASCO 学会参加報告 14:15 ~ 14:30

野中希 (JAMT 副理事)

ASCO 学会 患者アドボケート参加報告、(P10も参照)。

JAMT 翻訳ワークショップ 13:30 ~ 14:00

「テンスとアスペクト」 佐復純子 (JAMT 翻訳者 理事)

時間に関係する文法的カテゴリ「テンス(時制)」と「アスペクト(相)」をわかりやすく整理し、興味深い例文や記事を題材に解説。「数日間アスペクトを自動峻別できる」学習法や参考文献も示されました。



JAMT 抄読会

当会監修者を講師に迎え、秋から抄読会を開講しました。先生方にご専門分野の論文をピックアップしていただき、翻訳の演習をしています。

その背景や参考文献の調べ方、数値や統計の読み取り方などご講義頂きながら、よりよい翻訳のための知識を少人数で学んでいます。



(下村先生(右)と受講生)

前期

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 日 時: 9月8日(土) 10:00~11:45 |
| 講 師: | 尾崎由記範先生(腫瘍内科・乳癌/虎の門病院) |
| 第2回 | 日 時: 10月13日(土) 10:00~11:45 |
| 講 師: | 久保田馨先生(呼吸器内科/日本医科大学付属病院がん診療センター) |
| 第3回 | 日 時: 11月10日(土) 10:00~11:45 |
| 講 師: | 北丸綾子先生(理学博士・実務翻訳者) |
| 第4回 | 日 時: 12月8日(土) 10:00~11:45 |
| 講 師: | 榎本裕先生(泌尿器科/三井記念病院 泌尿器科) |
| 第5回 | 日 時: 1月12日(土) 10:00~11:45 |
| 講 師: | 下村昭彦先生(腫瘍内科・乳癌・早期開発/国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科) |
| 第6回 | 日 時: 2月9日(土) 10:00~11:45 |
| 講 師: | 東光久先生(総合診療・腫瘍内科・緩和ケア/福島県立医科大学 白河総合診療アカデミー) |

後期

- | | |
|------|-----------------------------|
| 第7回 | 日 時: 3月9日(土) 10:00~11:45 |
| 講 師: | 後藤悌先生(呼吸器内科/国立がん研究センター中央病院) |

愛知県立大学「通訳翻訳研究所」講演会

“医療の発展と患者さんに貢献する医療翻訳” 野中希 副理事長

平成30年11月20日(火)、愛知県立大学(長久手キャンパス)学術文化交流センター小ホールにて開催された「通訳翻訳研究所」主催の講演会にて、野中希副理事長によるJAMTの活動についての講演会が行われました。主に外国語を学ぶ学生さんに向け、がん診療における医療翻訳の必要性を訴え、がんや医療のリテラシーに理解を深めてもらえるよう呼びかける内容でした。

11月22日の中日新聞朝刊に写真入りで大きく取り上げられました。



(左からJAMT 山田登志子さん、野中副理事長、愛知県立大学・通訳翻訳研究所長 大森裕貴先生、JAMT 高橋多恵さん)

4. 監修者から



貴重な勉強の機会を 有難うございます

横須賀米海軍病院 佐々木裕哉先生

私がJAMTにご縁をいただきましたのは2013年に上野で行われておりました、がんに関するボランティアイベントでした。以来、主に血液腫瘍（造血器腫瘍）の領域における最新の記事を監訳という立場で担当させていただく機会を賜り、翻訳の方々や事務局の方々とともに記事を担当させていただいております。

変化が激しい医療環境の中で、正確な内容であり、かつ、日本語として自然な訳出を続けておられるJAMTの皆様にはただただ頭が下がります。英語が不得手の私にとって、翻訳者様の文章から学ぶことは毎回大変多く、監訳という

機会をいただけた幸運に心から感謝しております。現在の職場ではアメリカ人の患者さんとコミュニケーションを取ることが多く、JAMTでの監訳を通じた英語経験は実務においても大変役立っております。

ゲノム医療、プレシジョンメディシンの時代が到来し、血液腫瘍を理解するために必要な情報の内容は今まで以上に複雑化してきています。患者さんや患者さんを支える方々へ正確な情報が伝わりますよう微力ながらお手伝いをさせていただければと願っています。今後ともご指導のほど何卒宜しくお願い申し上げます。



JAMTは大きな「たからもの」、 さらなる発展を！

近畿大学医学部内科学腫瘍内科部門 高濱隆幸先生

日頃、腫瘍内科医として、臨床試験を通じた新しい治療法の開発、固形がんの新薬開発、そして最近はゲノム医療の実装に関わる立場として活動しております。JAMTに加わって6年になりますが、日々翻訳者の皆様の丁寧な翻訳に感銘を受け、新しい発見をし、事務局の皆様のお心遣いにも感謝しております。

最近でもSNSや広告など、インターネット上に氾濫する「出処の確かでない医療情報」を見る機会があります。発信者は無責任に根拠なく発言する一方、このような情報は広まりやすいのが事実です。それに対して、JAMTの誇る「がん診療・研究に携わる医師が監修をした日本語の情報」がいかに重要であるか。その価値は年々さらに高まっているようにも思います。以前JAMTの翻訳記事を持って外来に来られた患者さんもあり、実際に治療の現場で頼り

にされる存在になっていることも実感します。最初は憧れから参加表明をしたJAMTですが、緊張感を保ちながら監修に取り組んで参りたいと思います。

さて、ゲノム医療、免疫治療が多くのがん種に適応される時代となり、目まぐるしく環境が変化しています。数ヶ月前とは状況が一変していることも少なくありません。今後、「賢い情報の取捨選択」に関わる発信も強化されることを期待していますし、大阪からもたくさんアイデアを出していきたいと思っています。

最後に、JAMTが誇る膨大なリファレンスと、翻訳者を中心とした人材は他に得難い大きな「たからもの」です。今後も相互に交流して連携を深め、継続的に新しい情報の配信が行われることで治療選択の一助になることを切に願っています。



正しいがん医療の知識を

川崎市立井田病院 緩和ケア内科・リハビリテーション科 佐藤恭子先生

はじめまして。私は、地域がん診療連携拠点病院である川崎市立井田病院で緩和ケア病棟勤務、訪問診療を行っております。緩和ケアに携わる中で、患者のQOL/ADLを維持するリハビリテーションにも興味を持ち、リハビリテーション科医師としても働いております。JAMTは、社会人大学院の同期が翻訳者をされており、紹介いただきました。

患者様ご家族様とお話していると、最先端の治療についてこちらがびっくりするほどよく理解された上で治療を選択している方もいれば、民間療法をエビデンスのある治療と全く同等に理解されて大金を使っている方もいます。「希

望」を支えたいという気持ちがエビデンスのない治療に向かうことを否定はしませんが、医療従事者としては、無駄にお金とエネルギーと時間を使うのではなく、正しい知識を持って、ご本人ご家族らしい「希望」を見つけることができて前向きに過ごすことができればと切に願います。

日常診療に追われ、なかなか広く地域での啓発活動などに取り組む機会がありませんが、JAMTの監訳に携わることで、少しでも多くの方に正しいがん医療の知識をお届けするお手伝いができればと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

2018年
ビッグ
ニュース!

『2018年ノーベル医学生理学賞、CTLA-4およびPD-1の発見に』

2018年10月1日、カロリンスカ研究所、ノーベル生理学・医学賞選考委員会は2018年ノーベル生理学・医学賞を免疫チェックポイントを阻害するがんの治療法の発見という功績に関し、本庶佑氏（京都大学名誉教授）とJames P. Allison(MDアンダーソンがんセンター) の2氏に授与することを決定しました。ジェームズ・アリソン氏はCTLA-4を、本庶佑氏はPD-1 というT細胞のブレーキを発見し、がん免疫療法薬の開発に大きな功績を残しました。当サイトでは、近年それらの治療薬は連日ニュースに上がり、多くの患者さんを救っています。

(「海外がん医療情報リファレンス」記事参照)

2018年度がん医療の注目ワード！

【がん最前線—これらの用語を抑えよう！】 いくつ知っていますか？

patient reported outcome(PRO)	患者報告アウトカム、患者直接報告：「被験者の症状やQOLに関して、自分自身で判定し、その結果に医師をはじめ他のものが一切介入しないという評価方法」と定義されている。治療効果や副作用の評価方法として、これまで臨床検査や画像検査などの医学的指標や医師の判断が用いられてきたが、近年、特に国際臨床試験では、リアルタイムでより正確に、治療に対する患者の情報を把握できるとして患者直接報告による主観的評価の測定が広がっている。
real world data(RWD)	リアルワールドデータ：RWDは、臨床試験や研究などの厳格なプロトコル管理下で得られたデータではなく、実際の診療報酬明細書（レセプト）や電子カルテなど、実診療から得られた患者データおよびデータベース。近年、製薬企業等で活用されているデータ。
immune-related adverse events(irAE)	免疫関連有害事象（irAE）：免疫チェックポイント阻害薬（PD-1、PD-L1、CTLA-4阻害薬）の登場により、免疫機能の亢進によると考えられる免疫関連の副作用がみられるようになった。

5. 翻訳者から



「JAMTでの活動を振り返って」 関口百合

私がJAMTや海外がん情報サービスのことを知ったのは家族の膀胱がんがきっかけでした。突然の告知、担当医から求められる処置や治療に関する同意の数々。家族として何を基準に同意、不同意を決めたらいいのかわからない。でもゆっくり調べたり考える時間も与えられていない。書店に行けば素人目にも信憑性に疑いのある本があって戸惑ってしまう。そんなときに頼りにしたのが日本や海外の公的機関や患者会が発信している情報でした。ただ、別分野の翻訳は仕事の一環で行っていたものの、医療系には接したことがなかった私にとって、患者用サイトでも知らない単語が多く、海外の情報を読むのには苦労しました。海外の情報を読みたくても苦労している方が他にもいるのではないか。そのように思っていたとき、JAMTの活動を知

り、思いきってボランティア翻訳に応募したところ、登録していただくことができました。

患者の家族として感じたのは、海外の例であっても、生存期間が延長したとか、新薬が承認された、というニュースは希望を与え、その希望が治療への活力や生きる意欲につながるということです。がん患者さんのお役に少しでも立てたらいいなと思いつつ、正確で読みやすい訳が届けられるよう、これからも努力していきたいと思います。これまでJAMTのセミナーや勉強会でご指導下さった先生方、監修の先生方、そして機会を与えて下さった副理事長の野中さんに感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



「JAMTとの関わり」 会津麻美

私がJAMTにボランティア翻訳者として登録したのは2013年頃ですが、別のボランティア活動、転職などがあり、実際に活動に参加するようになったのはここ1,2年のことになります。かつて製薬会社の図書室で文献調査を担当していた際に医薬英語の勉強のために翻訳学校に通った経験、白血病の母の闘病に寄り添った経験から、医療系の翻訳ボランティアがないかとネットで検索した際にJAMTのサイトを見つけたのがきっかけでした。

今年度は、サイトでの翻訳に加え、外部ボランティアプロジェクトにも参加、患者さん向けの資料の翻訳（英訳）、アンケートの翻訳や翻訳チェックなどを経験させていただきました。

外部のプロジェクトに参加してよかったと思った点は、

メールのやり取りや翻訳チェックを通して他の翻訳者さんの訳文にじっくり目を通す機会が得られたこと、皆さんが患者さんに向けてわかりやすくするために翻訳の際にどういった配慮をしているのかを垣間見ることができたことです。また、アンケートのプロジェクトでは、プロジェクトへの日本人参加者数などのフィードバックをいただいたことで、少しは貢献することができたかなという実感もわき、うれしく思いました。

JAMTは、監修の先生方、ボランティアの方々で有用なサイトを運営しつつ、外部の患者団体やコクラン・プロジェクトなどの活動にも積極的に協力されている、素晴らしい団体だと思っています。外部のプロジェクトについても、また機会があれば参加してみたいです。



「JAMTに参加して」 田村克代

JAMTに参加するようになり、早いものでもう5年が経ちました。私の場合、JAMTの活動に携わるまで全く翻訳経験がなく、最初は大丈夫かなと不安を持ちながらのスタートだったのを思い出します。

その間、10周年記念セミナー＆懇談会と関西がんセミナーにも参加させて頂きました。翻訳は一人でどこにいてもできるため、転居することが多く子育て中だった私でも継続して参加できるというメリットがありますが、一方で、訳についての悩みを誰かに相談したり、新しい情報を得る

機会があまりないという側面もあると感じていました。そのため、このようなJAMTのイベントは、監修の先生方から最新の情報を聞くことができ、また、それまで名前しか知らなかったメンバーの皆さんと直接お会いして、JAMTの活動や翻訳に関することだけではなく子育てについてなど、和気藹々とした雰囲気の中でお話をすることができたとても貴重な場でありました。

JAMTに参加することは、信頼できる良質な情報を多くの人に届けるという意義ある活動に携われるということだ

けではなく、翻訳を通して多くの学びがあり、さらにセミナー等において様々な世代、立場、経験を持った方々と出会うことで自分の世界を広げてくれるそんな場所でもあると感じています。

翻訳については、まだまだ学ぶべきことが多く毎回悩みながらですが、これからもより多くの方々に情報を届けるお手伝いできればと思っています。

6. 副理事長から

副理事長 統括責任者 野中 希



本年もJAMTの翻訳協力者の皆様の貴重なご尽力により、『海外がん医療情報リファレンス』ボランティアサイトにて400記事以上、ならびにコクランライブラリー（月2本）への翻訳記事の公開が叶いました。JAMT役員を代表し、心より御礼申し上げます。

今年10月にはノーベル医学生理学賞に本庶佑氏とジェームズ・アリソン氏が共受賞され、がん治療が大いに注目された年となりました。その影響か、サイトの閲覧数も増加しました。受賞が喜ばしいのはもちろんですが、免疫チェックポイント阻害薬により治療が大きく向上して多くの患者さんに貢献していること、そして今後も利益を享受できる人や適応症が増えるだろうとの期待が持てるのは何より嬉

しいことです。

さらにJAMTでは‘がん医療におけるギャップをなくし、世界とつながる’ための患者レベルでの支援活動が活発化した年でした。GISTや腎がんの患者国際会議への橋渡し、および白血病（CML）、腎がん、卵巣がん、希少がんなどで、国際的な患者アンケート調査関連の翻訳に関わらせていただきました。世界の国々の患者が集まったの会議や調査研究に参加することは、交流はもちろん、自国と世界とのがんを取り巻く状況を比較するうえで有意義かと思えます。現状、日本には各がん種の患者支援団体は決して多くなく、国際的な患者組織にも日本やアジアからの参画が少ないと聞いています。これからは一層、日本と世界の患者交流に拍車がかかるのではとの手ごたえを感じています。

次年度もJAMT一同、精進してまいりたいと存じます。引き続き、皆様にお力添え賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ASCO学会参加報告

（日本癌治療学会PAL助成：野中 希）

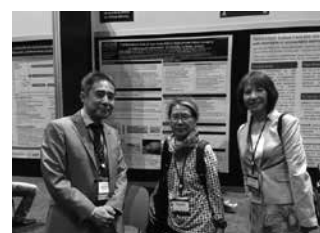
2018年6月1－5日米国臨床腫瘍学会（ASCO）（米国シカゴで開催）に患者アドボケートとして参加しました。2011年、2012年にASCOに参加してから6年ぶりで、今回は、日本癌治療学会PAL（患者アドボケートリーダーシップ）助成により参加させていただきました。日本癌治療学会PALでは、毎年2名選ばれ、2年間参加します（毎年合計4名）。日本からアドボケートや先生方と参加でき賑やかでした。

ASCOは世界最大のがんの学会で、今年は世界中から39,000人が集結しました。会場も広大です。たくさんの重大な最新研究の結果発表が目白押しの中、特に影



響力の大きな発表として選ばれたプレナリーセッション4演題の一つに、日本から久保田理事長も参加されたKEYNOTE-042研究の発表があり驚きました。どの発表もとても新鮮でそれぞれ重要、興味全開で会場を駆け回りました。日本および海外の患者さんらとの交流もでき、この貴重な経験をしっかり持ち帰り、今後の活動に活かしたいと思っています。

日本から多くの先生方も来られており、ポスター発表の場で何人ものJAMT監修者の方々にご挨拶できました。日本からのポスター発表に目が留まりお話したのがきっかけで、埼玉医科大学国際医療センター皮膚科の中村泰大先生に出会えました。ご縁をいただき感謝です。



（左から中村先生、片瀬ケイさん、野中副理事長）

7. スタッフから (順不同)

FDA ニュース担当: 木村素子

翻訳者の皆様および監修の先生方、スタッフの方々にはいつもたいへんお世話になっております。改めて御礼申し上げます。がん治療薬の正確な情報提供の一助になれば幸いです。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

MD アンダーソン、OncoLog 担当: 栗木瑞穂

今年度から担当させていただいた MD アンダーソン OncoLog が 8 月に終了。長文を翻訳していたいただいた翻訳者の皆様、急なお願いに快く応じていただいた監修の先生方、ありがとうございました。不手際、失礼の数々お許しください。今後も別の担当となりますが、懲りずによりしくお願いいたします。

NCI ファクトシート、その他公的記事担当: 工藤章子

今年度から初めてカテゴリスタッフを担当することになり、自分で翻訳するときとはまたちがう場所から医療翻訳を勉強する機会をいただいています。みなさんの翻訳をさらに多くの人につなげようように頑張りたいと思います。

NCI がん研究ブログ担当: 林さやか

今年も多くの著名な方が、がんで亡くなられたニュースを目にしました。そのような中で当会の活動がより多くの皆様の助けとなるよう、微力ながらお手伝いさせていただいていることをうれしく思っております。

医療ニュース担当: 山田登志子

医療ニュースカテゴリを担当して 4 年半、がん医療のめざましい進歩を実感しています。ネットに豊富な情報があふれる中、科学的根拠に基づく正確な情報を伝えるという有意義な作業に携われることは、とてもやりがいがあります。

学会ニュース担当: 関口百合

今年度から学会・大学ニュースの担当をさせていただいております。翻訳者のみなさま、監修の先生方には、お忙しい中、迅速に対応くださり心より感謝しております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

学会ニュース担当: 青山真佐枝

学会ニュース担当のスタッフとして 2 年目を迎えました。監修の先生方、翻訳者の皆様、お忙しい中ご協力いただき本当にありがとうございます。医療に関する多くの情報があふれる中、最新かつ正しい情報を多くの人達にお届けする JAMT の活動に携われることを、大変うれしく思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

大学・施設ニュース: 霜出佳奈

4 月より施設・大学ニュースのカテゴリ担当をさせていただきます。ご監修の先生方、ボランティア翻訳の皆様には、いつもお忙しい中ご協力いただきまして感謝しております。今後もできる限り滞りなく、記事を公開していくお手伝いをさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

NCI 動画担当: 山口夏代

いつも字幕翻訳の監修・翻訳にご協力いただき、ありがとうございます。字幕講習会に参加された新しい翻訳者の方も、ご協力いただいています。これからも新しい動画を取り上げていきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

コクラン担当: 佐治京子

今年度も皆様には大変お世話になりました。コクランの翻訳は今年度から量が少なくなりましたが、そのわかりやすい翻訳にするのも難しいところではあります。3Cs (Correct, Clear & Concise) を目指したいと思います。来年度もよろしくお願いいた

します。

コクラン担当: 大澤朋子

コクラン担当の大澤です。翻訳者の皆さま、監修の先生方、お忙しい中のご協力を大変ありがとうございます。今年後半から HPP へのコクラン記事 UP を定期的に行うようになりました。ぜひご確認くださいませ。来年も宜しくお願い致します。

メルマガ (ダイジェスト) 担当: 重森玲子

2 週間ごとにメルマガを発行し、読者の皆様に新着記事をお届けしております。今年度もたくさんの記事がサイトにアップされ、メルマガ読者の方々に多くの情報をお届けすることができました。来年度も微力ながら貢献できれば幸いです。

NCI 薬剤情報担当: 張知子

タイトルチェック (CC、学会ニュース、FDA/ 安全性情報)・投稿統括: 野中希、金田澄子、佐々木真理

SNS 担当: 白石里香

記事の投稿では、JAMT の活動をより広く知っていただき、さらに興味を持っていただけるよう心がけてまいりました。できる限り多くの方々に読んでいただけるよう、分かりやすく、伝わりやすい文章で、今後もコツコツと続けていきたいと思

事務局スタッフ
運営統括/野中希
事務局/水野恵、水町美和、清水栄子、川見佐知
会 計/水野恵
収益部門翻訳コーディネーター/
鳥居塚千恵、今泉真希子

「海外癌医療情報リファレンス」統一訳語 最終校正箇所 ※詳細は「統一訳語集」を参照

(英語例)	訳語統一
response	奏効 ○ 奏功 ×
Cancer	「がん」で統一 全てのがん種を含むとする。
randomized	ランダム化試験 ○ 無作為化試験 × ※ただし、副詞は「無作為に」
Progression free survival (PFS)	無増悪生存(期間/率) ○ 無増悪生存 ×
first line therapy	初回治療、一次治療 ○ 第一選択治療 ×
Trial, clinical trial, study の一部	試験、臨床試験(試験は狭義(日本で定義された新薬申請のための臨床試験)なので、サイトでは原則使用しない)ただし、「治験薬」などでは用いることもある。
Participant, Patient	(原則)患者 ○ 参加者、試験登録者、患者 ○ 「被験者」は使用しない。(患者が早く読める文章に配慮。)
Scientist	研究者 ○ 科学者 ×
author	著者 ○ 執筆者 △ First author 筆頭著者、lead author 主著者、senior author 統括著者、上級著者
Virus	・ウイルス 「イ」は小さくしない。 ※遺伝子名は本来、斜体文字だが、サイトでは斜体にしていない
sign	徴候 ○ 兆候 × (医学的文章では、sign は「症状」という意味で用いられていることが多く「徴候」とする)
Androgen deprivation therapy	アンドロゲン除去療法 ○ アンドロゲン枯渇療法 ×
～カ月 ○ ～ヶ月 ×	
～人 ○ ～名 ×	(～例は通常使用しないが、専門的なものなど場合に応じて可)
・ジャーナル名	「原語」+ 誌 (全米科学アカデミー紀要など、例外もあり)
・企業名	「原語」+ 社 (適宜)
・人名	「原語」+ 氏
・施設名・地名	はできるだけカナにする。
さらに、われわれ、および、ならびに、したがって、おそらく、いっしょに、さまざま、おのおの、いろいろ、ように、	結論づける/裏づける、わかる＝ひらがな表記
「 」○ 「 」× (文末の場合は「 」○ 「 」)	
「 」内の最後の文章に 。をつけない。(例)「・明らかにになった」と述べた。○「・明らかにになった。」と述べた。×	
数字、アルファベット	＝半角 「」、%、() ＝全角
通常は主に算用数字を使用する。ローマ数字を使う必要がある場合、ローマ数字 (I、II、III、IV) は機種依存文字なので使用せず、(I、II、III、IV) とアルファベットで打つ。	
薬剤名の表記仕方	一般成分名 (商品名)、商品名 (一般成分名) 英語 [日本語カナ] または 日本語カナ [英語] カナ表記にするか英語表記にするかは、薬剤の日本での承認や、一般にカナで通用しているかどうかによる。 日本未承認でカナ表記する薬剤の場合は、初出時に英語表記も入れる。 (例) vismotegib [ビスモテギブ] (Erivedge [エリベッジ]) → 順序逆もあり

FDA 承認された新薬ニュースの一覧 2018年1月～2019年1月まで

	ニュースタイトル
2019年1月	FDA が肝細胞がんにかボザンチニブ【商品名:CABOMETYX】を承認
2018年12月	FDA が急性リンパ性白血病に calaspargase pegol【商品名:ASPARLAS】を承認
	FDA が芽球形質細胞様樹状細胞腫瘍に tagraxofusp【商品名:ELZONRIS】を承認
	FDA が BRCA 変異卵巣がんの一次治療薬にオラパリブ【商品名:LYNPARZA】を承認
	FDA がメルケル細胞がんにもペムブロリズマブ【商品名:キイトルーダ】を承認
	FDA が FLT3 変異陽性の再発性白血病 (AML) 治療薬としてギルテリチニブ【商品名:ゾスパタ】を承認
	FDA が非ホジキンリンパ腫に rituximab-abbs【リツキシマブ-アブス】【商品名:truxima】を承認
	FDA が転移非小細胞肺がんに化学療法+アテゾリズマブ【商品名:テセントリク】を承認
11月	FDA が特定の遺伝子特性を有する固形腫瘍に対して larotrectinib【ラロトレクチニブ】【商品名:VITRAKVI【ビトラクビ】】を承認
	FDA が75歳以上または合併症がある成人の AML に glasdegib【商品名:DAURISMO】を承認
	FDA が高齢者急性白血病の治療に venetoclax【ベネトクラックス】【商品名:VENCLEXTA】を承認
	FDA が血球貪食性リンパ組織球症に emapalumab【商品名:GAMIFANT】を承認
	FDA が2種類のリンパ腫に プレンツキシマブ ベドチン【商品名:アドセトリス】を承認
	FDA が肝細胞がんにもペムブロリズマブ【商品名:キイトルーダ】を迅速承認
	FDA がロルラチニブ【商品名:LORBRENA】を ALK 陽性転移性肺がんの二次治療以降に承認
10月	FDA が転移扁平上皮肺がんの初回治療にペムブロリズマブ【商品名:キイトルーダ】併用を承認
	FDA が gBRCA 陽性で HER2 陰性の局所進行/転移乳がんにもタラゾパリブ【商品名:TALZENNA】を承認
	FDA が転移/局所進行皮膚扁平上皮がんにもセンプリマブ【商品名:LIBTAYO】を承認
9月	FDA が転移を有する非小細胞肺がんにもダコミチニブ【商品名:VIZIMPRO】を承認
	FDA が再発または難治性の白血病 (CLL、SLL) にデュベリシブ【商品名:COPIKTRA】を承認
	FDA が有毛細胞白血病にもキセツモマブ【商品名:LUMOXITI】を承認
8月	FDA が転移小細胞肺がんに対する三次治療にニボルマブ【商品名:オブジーボ】を迅速承認
	FDA が転移非扁平上皮肺がん初回治療にペムブロリズマブ【商品名:キイトルーダ】を正式承認
	FDA が切除不能肝細胞がんにもレンバチニブ【商品名:レンビマ】を承認
	FDA が非ホジキンリンパ腫にもモガムリズマブ【商品名:ボテリジオ】を承認
	FDA がアジスロマイシン【商品名:Zithromax】長期使用によるがん再発リスク増大を警告
7月	FDA がまれな副腎腫瘍にイオベンゲンアン I 131【商品名:AZEDRA】を承認
	FDA が再発/難治性の急性骨髄性白血病にイボシデニブ【商品名:Tibsovo】を承認
	FDA がリボシクリブ【商品名:Kisqali】を HR 陽性 HER2 陰性の進行/転移性乳がんにも適応拡大
	FDA が非転移性の去勢抵抗性前立腺がんにもエンザルタミド【商品名:XTANDI】の適応を拡大
	FDA が遠隔転移を有する MSI-H または dMMR 大腸がんにもイピリマブ【商品名:ヤーボイ】を承認
	FDA が尿路上皮がんでのアテゾリズマブ【商品名:キイトルーダ】とペムブロリズマブ【商品名:テセントリク】の使用を制限
6月	FDA が BRAF 変異メラノーマに encorafenib【商品名:BRAFTOVI】と binimetinib【商品名:MEKTOVI】の併用を承認
	FDA が再発または転移性子宮頸がんにもペムブロリズマブ【商品名:キイトルーダ】を承認
	FDA が卵巣がんの化学療法との併用でベバスズマブ【商品名:アバスタチン】を承認
	FDA が再発・難治性 B 細胞リンパ腫 (PMBCL) にペムブロリズマブ【商品名:キイトルーダ】を承認
	FDA が p17 欠失のない慢性リンパ性白血病に対しても venetoclax【ベネトクラックス】【商品名:VENCLEXTA】を承認
5月	PD-L1 低発現尿路上皮がんではペムブロリズマブ【商品名:キイトルーダ】、アテゾリズマブ【商品名:テセントリク】単剤で生存率低下
	FDA が貧血薬エポエチンアルファ【商品名:Retacrit【レタクリット】】のバイオシミラーを承認
	FDA が BRAF 変異甲状腺がんにもダブラフェニブ【商品名:タフィンラー】とトラメチニブ【商品名:メキニスト】の併用を承認
	FDA が B 細胞リンパ腫 (DLBCL) に CAR-T 療法薬 tisagenlecleucel【チサゲンレクロイセル】【商品名:KYMRIAH【キムリア】】を承認
	FDA が BRAF 変異メラノーマにもダブラフェニブ【商品名:タフィンラー】+トラメチニブ【商品名:メキニスト】を承認
4月	FDA が EGFR 陽性非小細胞肺がんの一次治療にオシメルチニブ【商品名:タグリッソ】を承認
	FDA が進行腎細胞がんにもニボルマブ【商品名:オブジーボ】+イピリマブ【商品名:ヤーボイ】併用療法を承認
	FDA が再発卵巣がん維持療法薬としてルカパリブ【商品名:Rubraca【ルブラカ】】を承認
3月	FDA が微小残存病変を有する前駆 B 細胞 ALL にブリナツモマブ【商品名:Blincyto】を適応拡大
	FDA が CD30 陽性ホジキンリンパ腫の初回治療に プレンツキシマブベドチン【商品名:アドセトリス】を拡大承認
	FDA が BRCA 変異3種類に対し、初の一般用遺伝子検査を条件付き承認
2月	FDA が HR 陽性 HER2 陰性転移性乳がんの初回治療にアベマシクリブ【商品名:Verzenio】を承認
	FDA が切除不能ステージ3非小細胞肺がんにもデュルバルマブ【商品名:Imfinzi】を承認
	FDA、無転移生存期間をもとに非転移性去勢抵抗性前立腺がんにもアバルタミド【商品名:Erleada】を承認
	FDA が転移性高リスク去勢感受性前立腺がんにもアビラテロンアセテート【商品名:ザイティガ】とプレドニゾンの併用を承認
1月	FDA が膵・消化管神経内分泌腫瘍の内用療法に Lutathera【ルテチウム Lu、177 ドータテート】を承認
	FDA、TKI 非抵抗性の EGFR 変異転移性 NSCLC にアフアチニブ【商品名:ジオトリフ】を承認
	FDA が BRCA 遺伝子変異転移乳がんの治療にオラパリブ【商品名:Lynparza】を承認

8.事務局からのお知らせ

(事務局 Email:office@jamt-cancer.org)

●2018年 会計報告(1月～12月)

JAMTオフィシャルサイトへ3月中に掲載予定です。

●書籍・テキスト販売

- ・米国立がん研究所(NCI)ガイドブック
「がん治療後の生活」 400円
「がんの臨床試験(治験)ハンドブック」 500円
以上の冊子販売をしています。
ご希望の方は事務局までお知らせください。
- ・医療翻訳講座テキスト(改訂版) 会員のみ特別販売
定価5,000円→会員特別価格2,160円(税込、送料別)

販売代金、手数料のお振込先はこちらです。

(会費振込先とは別口座になります)
【振込先】三菱UFJ銀行
【支店】仙川支店
【口座番号】普通 0072693
【名義】一般社団法人 日本癌医療翻訳アソシエーツ
シャ) ニホンガンイリョウホンヤクアソシエーツ



●医療翻訳講座

通信講座(基礎入門講座・基礎実践講座)受付中
お問い合わせは事務局 office@jamt-cancer.org まで

2019年度年会費 お手続きのお願い

次年度は2019年4月1日から2020年3月31日となります。
会費につきましては2019年3月25日までに振込みをお願いいたします。

(会員資格についてはJAMT ホームページ(会員登録と寄付)をご確認ください)

【振込先】 ゆうちょ銀行 記号 10030 番号 78505391

一般社団法人 日本癌医療翻訳アソシエーツ

他金融機関からの振込みの際は

【店名】〇〇八(読みゼロセロハチ)

【店番】008 【預金種目】普通預金 【口座番号】7850539

* 退会をご希望の場合は、その旨必ずメールで事務局までご連絡をお願いします。引き続きみなさまのお力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

9.組織概要

名 称	一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエーツ
所 在 地	〒160-0022 東京都新宿区新宿2-15-22 Landwork新宿ビル8F
連 絡 先	office@jamt-cancer.org TEL 03-3356-5710 FAX 03-5367-6032
設 立 年 度	2009年4月1日 一般社団法人 (2004年10月～任意団体)
ボランティア翻訳 所属メンバー (2019年1月現在)	ボランティア翻訳者: 113 名 監修者: 53 名

- ・ JAMT オフィシャルサイト <https://jamt-cancer.org/>
- ・ 海外がん医療情報リファレンス <https://www.cancerit.jp/>
- ・ Twitter アカウント JAMT: @jamt_cancer 癌リファ: @cancer_ref
- ・ Facebook ページ JAMT: jamtforcancer 癌リファ: cancerreference
- ・ 医療翻訳講座: @jamtfortranslators

理 事	理事長 久保田 馨 医師/日本医科大学付属病院 がん診療センター/呼吸器内科
	副理事長 野中 希 医療翻訳者、医学ライター
	理事 東 光久 医師/福島県立医科大学 白河総合診療アカデミー 白河厚生総合病院総合診療科
	理事 後藤 倭 医師/国立がん研究センター 呼吸器内科
	理事 佐復 純子 医療翻訳者

監 事	監事 久賀田 郁子 著述業
	監事 尾崎 昭子

10.協賛企業 (順不同)

JAMTの運営支援をいただいた企業様に厚く御礼申し上げます。

ご支援についてはJAMTオフィシャルサイト「JAMT を支援する」をご覧ください。

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
MSD 株式会社
日本イーライリリー株式会社
日本化薬株式会社
中外製薬株式会社
大鵬薬品工業株式会社
ノバルティスファーマ株式会社

大日本住友製薬株式会社
アステラス製薬株式会社
株式会社バリアンメディカルシステムズ
株式会社クリニカル・トライアル

発行: 一般社団法人 日本癌医療翻訳アソシエーツ Japan Association of Medical Translation for Cancer (JAMT)
東京都新宿区新宿2-15-22 Landwork新宿ビル8F TEL:03-3356-5710 FAX:03-5367-6032
Email:office@jamt-cancer.org 公式HP:<https://jamt-cancer.org/>
2019年2月/第10号